

開会の辞

青山 秀明

京都大学 大学院理学研究科

経済物理学はここ数年、急速に発展してきました。論文、研究者、国内外の研究会や国際会議の数も増え、研究成果も積み重ねられつつあります。そのような状況を背景に、この基礎物理学研究所で、本研究会が初めて開催されることは非常に意義が深いと思います。ここは、湯川秀樹先生が 50 年前に設立された日本の理論物理学の総本山とも言える場所です。本研究所は、共同利用研究所として、理論物理学全般に亘って、所属大学や国籍を問わず、多くの研究者の研究活動を支援して、物理学の発展に多大な貢献をしてきました。経済物理学の研究には、素粒子論、宇宙論、物性理論などの様々な分野を本来の専門とする理論物理学者が従事しており、まさにこのような研究所で取り上げられるに相応しいテーマだと思います。

この研究会の開催を本研究所に提案した際には、様々な懐疑的な意見も寄せられました。曰く、「経済物理学は『物理学』ではない」「金銭的な私益を目指して、そのような研究をしているのではないか」「実験が出来ない分野だ」「何か、これまでに誇れる研究成果はあるのか」等々。これらへの答は、本研究会が進むにつれ、自ずから明らかになっていくものでしょう。ですから、それらについてここで論じることは止めておき、その代りに、湯川秀樹先生が好んで引用されたという言葉を書いておきます。

浅きにふかきことあり、

心をとめて見きけば、

面白きことのみなり

(「わらんべ草」狂言昔語抄 大蔵虎明)

この言葉にあるように、この研究会でも「面白きこと」が次々と論じられ、解明されると期待しています。最後に私の好きな歌の歌詞の一片を借りて、結びと致します。

Time and tide,

Nothing and no one can stop us now,

...

Let *Econophysics* take its course

that's the only thing for us to do.

(“Time and Tide” Basia)